

《塩の人形の話：「あなたは私でした」》

今日、皆様に私の好きな物語の一つをお話させていただきたいと思います。

それは、18年前スペインから来られたある神父様から聞いた話です。その人は私にとって霊的な指導をしてくださる方でした。私はその方に出会って自分の人生が変わりました。ですから皆様にとっても、大きな助けになると思います。

“塩”でつくられた人形の少年がいました。その少年は大きな親の愛の中でいつも自分が一番幸せだと思いながら暮らし、人生を楽しんでいました。ある日、目が覚めた時、窓から強い朝日が差し込んでいました。その光の眩しさの中で何となく自分の知らない心の動きを感じました。

「今まで自分が一番幸せだと思っていたけれど、まだ知らないものが外にはあるのではない」

「いつも親のひごのもとにいたけれど、親を離れて私が知らなければならない何かがあるのではないか」

「外に出て私はそれを確かめなければならない」

何日か考えた後、少年は親に家を出る許しを求めました。しかし「おまえは私達のもとを離れたら苦労ばかりになる。おまえを守ってくれるものは何一つない。だから余計なことを考えずに私達のもとにいなさい」と許されませんでした。塩の少年は自分の部屋に戻ります。しかし「何とか知りたい」という気持ちを抑えきれず、ある晩少年は簡単な荷物を持ち、黙って家を去りました。塩の人形の旅が始まりました。

ある日、一抱えに余る“けやきの木”が現れました。少年は「あなたは誰ですか？」と尋ねました。

「私はけやきだよ」

「けやきって何？」

「本当に私を知りたかったら、私に近づいてごらん」。

少年はけやきに触りました。

「あなたは光から影とそよ風を作ってくださいですね。疲れが取れて気持ちがいいです。ありがとうございます！」

少年はまた旅を続けます。次に“大きな岩”が現れます。「あなたは誰ですか」と、また同じように少年は尋ねます。そして触ると堅く冷たいことを知りました。旅人が座って休めるところになることも知り、満足しました。また旅を続けると“そびえ立つ山”が現れました。「あれは何？」「あのてっぺんに行ったらこの世の中が全部見えるかも知れない」少年は一気に走って山に登ります。頂上に着き、息も苦しくなり暫く座ってふと顔を上げると、自分の胸がドキドキしました。

「何だろう」その頂上から見えるものがありました。それは海でした。ものすごく大きく力強く見えました。そして柔らかくそうにも見えました。それに聞いて見たい。少年はまた走り出しました。そして砂浜にたどり着き、それが何であるか尋ねようとしたが、あまりに波の音や鳥の鳴き声が大きく、自分の声がそれに届かないのではないかと思いました。しかし勇気を出して聞きました。

「あなたは誰ですか？」 答えはすぐにはありません。

「あなたは誰ですか？」

「私は海だ」

「海って何ですか？」

「海はただ海だよ」

「分かりません。説明してください」

「少年よ、この世の中には言葉で説明出来ないものがある。私もその一つで、私は“海”としか答えようがないのだよ」

「おまえが本当に私を知りたければ、何の心配もせずに私の所にきて欲しい」

今まで色々なものに出会い、それを知り満足していた少年は、何のためらいもなく足を一歩海の中に踏み入れました。

さあ、どうなりますか？ そうです。塩で出来ている少年は溶け出します。

「あーっ」という悲鳴を少年はあげました。あまりの痛みに泣き出しました。

「私はただあなたを知りたかっただけなのに、何故あなたは私にこの様な苦しみを与えるのですか」と大声で叫びました。しかし海からは何の返事もありません。そしてしばらくして穏やかな声が響きました。

「少年よ、本当に私を知れたければその歩みを止めなさい」

少年は迷いました。その足は溶けて半分程になっていました。今でも苦しいのに更に進むべきか、大きな迷いが少年を襲いました。

「あなたを信じて私は入ります」

少年は思いきって歩み出しました。進む程に自分の身体が下の方から溶け出し無くなってしまうのを感じました。そして胸まで海に浸かった時、大きな波が彼をつつみました。少年は悟り叫びました。

「あっ、あなたはまさに私でした。私自身でした」と…。

この様なお話です。私はこの話を聞いて1ヶ月以上黙想しました。ある人は野原で神様に会ったと叫びます。ある人は“けやき”に出会って「私は神様を知っています」と言います。またある人は苦労しながらも“山”に登って「私はこの世の中を全て知っています」と言います。

「私は神様について完璧に理解しています」と言う人もいます。ある人は浜辺まで行き、海を見て「これは自分には理解出来ないものだ」と考える人もいます。一歩踏みだし足を海にいれて、「神って痛みだよ」という人もいます。その“海”に、この世の中の素晴らしい言葉を当てはめてみてもいいと思います。例えば、愛、神様、正義、平和という言葉に代えてもいいでしょう。私達それぞれは、自分が今まで感じていたものが全部だと思いながら、そういうことで愛について、神様について、正義について説明しようとしています。しかし本当に神様を、愛を、平和を悟ったと言えるのは、自分身体全部を海の中に入れて「あなたは私でした」と告白が出来る人だけです。

私は20年間、皆様の前で神様について「こんな方だよ」と色々な話をして来ました。しかし本当に神様を“体験”して、“出会って”からこの様な話をしているのか、自分の頭の中にあるものだけで伝えようとしていないだろうかと反省しそして祈ります。

さあ、皆様はどこに立っているのでしょうか。まだ家の中に閉じこもっているのでしょうか。決心して旅立ったのでしょうか。“けやき”に出会った嬉しさに「あ、これが全部だ」と思っているのでしょうか。山の頂上まで登られたのではないのでしょうか。浜辺で足を海に入れようか入れまいか迷ってらっしゃるのではないのでしょうか。これが信仰の道です。

私達は“海”に入らなければならない。そして必ず条件があります。それは何でしょうか。それは“痛み”です。“痛み”なしに神様に出会うのは難しいことです。出来ないことです。そういう意味で、私達のカトリック信仰は“十字架の信仰”と言われています。皆様、色々な“痛み”をお持ちでしょう。その“痛み”を神様に、イエス様に出会う一番の宝物として付き合ってください。人との別れも痛みです。それも貴重なものとして受け入れてください。私達は「ここまで来ています」、「ここに立っています」と真剣に考えてみましょう。何十年信仰の生活をして神様についての具体的な体験が無かったら悲しいことです。何よりも皆様が求めなければならないのは神様との、イエス様との出会いです。その出会いの為に力を注いでください。一番大事なことです。そしてその中で体験する痛みを避け

ようとししないで下さい。この様なことを理解出来れば私達はどんな環境の中でもイエス様に会えます。

今日の福音で、イエス様は「悔い改めなさい、天の国が近づいている」とおっしゃいました。これはこの世の終末に限られるものではありません。それぞれが「本当に私は神の国を体験しているのか」、「自分の目の前にあるのに気付いていないのではないか」、「それを知ろうとする心がないのではないか」、「近づいている神の国を見ないようにしていないか」考えてみましょう。

ありがとうございました。